

はづ

No. 19

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会

平成2年3月26日



第10回 羽津地区文化祭 みなぎる活力!!

平成2年3月3日～4日
(羽津会館他)

ふれあいのまちづくりが進む羽津
ここに、こんな特技や趣味の持主が……
文化祭、盛況裡に閉幕

記事内容

- 地区行事アルバム
- (市長を囲む)…地区交流懇談会
- 訪問インタビュー
- 成人おめでとう
- 特集 体育振興会
- センターだより

地区行事アルバム



ナイス！バトンタッチ



めずらしい出初式風景



一斉消火

一番ゲート通過

文化祭を終えて

社会教育推進員 山本鉄男

急激な人口増加が見られる羽津地区的私たちが、あたたかい心のふれあいを通じて、それぞれの趣味のサークルや、スポーツ・レクリエーション活動などに参加するこにより、そこから新しい地域づくりが始まり、活性化につながっていくものと思います。その意味で羽津地区的住民一人ひとりがお互いに協力しながらいろいろな活動をしていくことが大切な要素になります。

毎年、地区社会福祉協議会が主催している文化祭も、今年は第10回を迎え、地区の皆さんを始め、各団体のご協力を得て、この程、例年になく盛況裡に終了することができました。

特に展示作品や舞台芸能発表を通じて、幼稚園・保育園児から春風会のご老人にいたるまで、中広い年令層の方がたに参加していただき、本当に良かったと思います。唯一の汚点は、展示品の紛失があつたことで、一部の人の心ない行為が悔やまれなりません。

又、昨年秋に開催された地区運動会や、ゲートボール大会にも多くの人びとが参加され、和気あいのうちに行事を終了することができました。

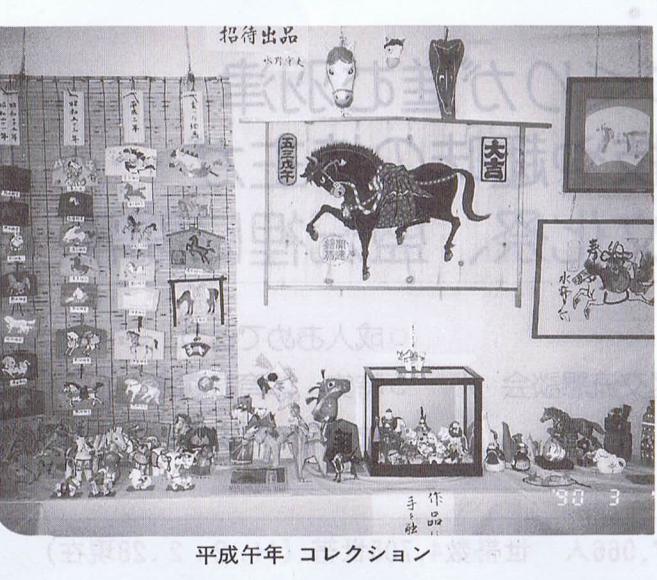
私は、この様な催し事を企画する場合、できるだけ多くの人が気楽に参加していただけるよう苦心をしておりますが、未熟なため皆さんに満足していただいているのか心の中では不安で一杯です。

これからも皆さんに、競技の勝敗や作品の巧拙にこだわらないで、気楽に行事に参加して貰い、そこから人びとのふれあいが始まると、連帯へと発展して、活力あるコミュニケーションティーづくりへつながっていけるものと思います。

その意味で、本当に参加することに意義がある体育文化行事をめざして最大の努力をしていきたいと思っています。

どうぞ遠慮のないご意見・ご批判をお聞かせ下さい様お願いします。

楽しいまちに
より住みよい
羽津のまちにしたい
積極的に参加して
みづからの手で
羽津のまちを
つくりあげてゆきたい



平成6年コレクション



たこ作りに熱中

羽津の歴史散歩

羽津郷土史研究会

元三
森

前回八幡のところをもう少し補足します。八幡さんの森は深くて街道を通る人の憩いの場所でもあります。

が、夜道には物騒な處であつた様です。明治三十八年の頃、盜賊が逃げこんで逮捕に協力した堀野真鏡さんの武勇伝があります。

明治四十二年八幡神社が志氏神社に合祀され、森が伐採されたあと、広永から乳牛二頭をつれて、服部牧場が来たり、住宅地に開けたのは八十年前からで、当時の八幡村は現在の地蔵堂より南に位置していました。

白須賀新田について、八幡村の出郷で、いつ頃出来たかははつきり解りませんが、沖積洲に出作りに立てられた小屋が、やがて住家となり、文化、文政の頃には出来高の記録や神社造立の棟札が数枚残されています。古いのでは寛文六年(1666)神明社のもので、残念乍ら詳しい文字は読みとれません。掲載の文化八年の棟札には額田郷白須賀新田としてある。どうして額田郷が入ったのか後々まで疑問になる处で、白須賀新田に庄屋の名が始まつて、これは藩命で恐らく人見八兵衛庄屋は額田郷の出身であろう。文政九年(1822)、豊広新田に住

吉大明神、造営の棟札がある、これも詳しく判読出来ません。

石豊広新田(六町六反)藤谷新田(三町五反)の新田は海上に浮んだり沈んだりした様で年貢が複雑です。安政二年(1855)の震災に壊滅し、神社は白須賀の神明社に摂社として、明治四十二年の志氏神社に合祠まで残っていました。

明治八年羽津村に新田が合併されるまで額田郷であった。文政・天保頃の古屋草紙が羽津を額田郷とした事が、明治十四年創立の学校を額田学校と名付けた。明治十五年に海岸線は一応修復されたことが記録されているが、その後も度々高潮がある毎に農民と海とは取つたり取られたりを繰り返し、昭和二十四年の伊勢湾台風は前代未聞で、同三十八年に高潮対策に出来た築堤が現在のものである。

次回は人造堰(二艘橋競輪場入口手前)についておつたえします。

大晦日子のかけくれしビバルディの「四季」の曲流れおせちを作る羽津山町坂倉俊枝

かはらけの接あわされて形なりぬ千五百年前の皿を手に受く

富士町 杉本光子 嫁病みて手伝ひに來し子の家のマ

イコンづくめの厨にとまどふ

富田浜町 早川澄枝 谷間の岳父のみ墓に詣でしが花筒

の水凍りつきをり 川原町 平子季昭

新豊つみて過ぎたるトラックの蘭

草のほひほのかに残す 羽津町 別名町 水谷安代

老づける主婦ら集ひて味噌作る二月の行事樂しかりけり 羽津町 広瀬敦子

湯に放ち命の髪を洗ひけり 羽津町 前田素子

羽津地区文芸

短歌

〈羽津野短歌会より〉

小林 英選



初舞ひの終はりて宴のひらかれぬ
私は奥飛驒慕情を歌へり

別名四丁目 青木熙子
雪深き御嶽に今年も登り来つ清滌

の高き氷柱の見ゆ
いかるが町 伊藤品子

萌え出でし草を食みる犬の背に
しだるる柳ひわ色をせり

大宮町 加藤光子
大晦日子のかけくれしビバルディ

の「四季」の曲流れおせちを作る
羽津山町 坂倉俊枝

かはらけの接あわされて形なりぬ
千五百年前の皿を手に受く

富士町 杉本光子 嫁病みて手伝ひに來し子の家のマ

イコンづくめの厨にとまどふ

富田浜町 早川澄枝 谷間の岳父のみ墓に詣でしが花筒

の水凍りつきをり 川原町 平子季昭

新豊つみて過ぎたるトラックの蘭

草のほひほのかに残す 羽津町 別名町 水谷安代

老づける主婦ら集ひて味噌作る二月の行事樂しかりけり 羽津町 広瀬敦子

湯に放ち命の髪を洗ひけり 羽津町 前田素子

俳句

〈志氏ヶ野句会より〉

村田青麥選



〔選者詠〕

深き湯に身をゆだねてこのゆふ
ベカボス絞りし手の匂ふなり

桑名市 桑名市 渡辺茂子
庭の木に鶴の離巣立つらし一人暮しに希望生れたり

羽津町 加藤幸代
紅葉の木々の間に間に滝の音

鶴町 安田源吉
節くれの掌に玉串を秋祭

城山町 藤井まき女
松南天の葉づれかそけし

東阿倉川町 水谷怜子
加留多会のサークルに入るとカセ

ツトを押絵しながら日毎聞きをり

控へ目に生きてこみるる菜を間引く

城山町 藤井まき女
松南天の葉づれかそけし

豊年や案山子のしめる縄の帶

動くとも見えず向変へ冬の鯉

城山町 宮田健三
鶴町 安田源吉
片岡とき代

〔選者句〕

破船焚く大火は淋し雁帰る
村田青麥

羽津町 加藤幸代
紅葉の木々の間に間に滝の音

鶴町 安田源吉
節くれの掌に玉串を秋祭

城山町 藤井まき女
松南天の葉づれかそけし

動くとも見えず向変へ冬の鯉

編集後記

地区行事アルバムで一年を振り返り、新年度へのステップになればと思います。
No.19号をお届けします。

暖冬とはいえ、彼岸も過ぎて、春の喜びにひたる今日この頃です。

ここに、地区広報「はづ」No.19号をお届けします。

地区行事アルバムで一年を振り返り、新年度へのステップになればと思います。
No.19号をお届けします。

住みよい「はづ」、住んで良かったた「はづ」、そんなまちにしたいものです。

編集委員

山本鉄男 天野平一
奥村光子 内田節子
村瀬重行 林英雄
小井正史 小関佳子
堀悦子 水谷由紀子
羽津地区市民センター

久志本幹子